モニタリングサイト 1000

里地調査

モニタリングサイト 1000 とは

環境省生物多様性センターが平成 15 年度から開始した事業です。日本全国の約 1000 ヶ所のサイト（調査地）において、100 年間の長期にわたり調査を実施する事業で、サイトは「森林・草原」「里地里山」「サンゴ礁」など景観別に分類されています。

～里山の変化を早期に把握し
保全のために役立てることを目指したプロジェクト～

「里山」は、人と自然との長い関わりによって作り出された、集落やそれを取りまく森林、水田、ため池、草原など、変化に富む場所です。里山は、持続的な自然資源の利用の場としてだけでなく、多くの生きものを育む場として、注目を浴びています。

しかし、近年では都市開発されたり管理が行き届かなくなったりといった要因により、里山の生物多様性が急速に変化しています。

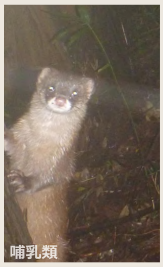
このような里山の変化を早期に把握し、保全のために役立てることを目指したプロジェクトが、**モニタリングサイト1000里地調査**です。

市民が主役の100年間の調査です

里山は広く多様な環境を含むため、その変化を全国レベルで把握するためには、長期的な調査を多くの場所で行う必要があります。
そのため、地域に愛着を持って長く活動していくことができる地域の「市民」が、調査の主体となっています。

8項目の総合調査

多様な里地環境の変化をとらえるために、植物相、鳥類、哺乳類などの 8 項目にわたる調査を実施しています。



ホタル写真提供：大場 信義

サイト（調査地）

里地分野では、全国で約 200 ヶ所のサイトが登録されています。
各サイトから調査結果を送ってもらい、里山の生物多様性の現状や変化を解析します。

コアサイト ●
- 18 ヵ所
- 100 年間を目指し、複数項目の総合的な調査を行うサイト

一般サイト

2008 ～ 2015 年度の間で調査に参加したサイト ●
2018 年 4 月から調査に参加したサイト ●

- 年度によってこれまで180-220 ヶ所
- 最低 5 年間、1 項目以上の調査を行うサイト

2018 年 4 月現在

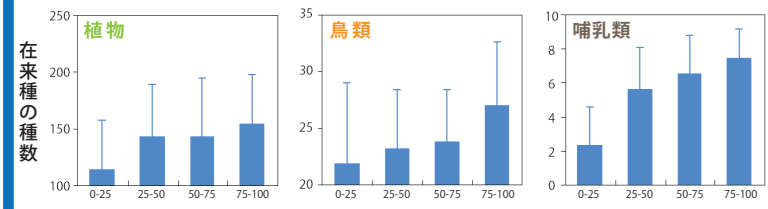
調査データを里山の保全に活かすために

全国約200ヶ所で調査を開始して15年以上が経ち、得られたデータから全国の里山の現状が明らかになりつつあります。
そしてこれまでに、『生物多様性国家戦略』等の国の重要な計画をはじめ、各地のレッドデータブックにデータが活用されるなど様々な場面での成果活用が進んでいます。今後は、地球規模モニタリングとも連携するなどして、さらに生物多様性保全に貢献していきたいと考えています。

里山の危機 開発・分断

森林縮小による種多様性への悪影響を確認

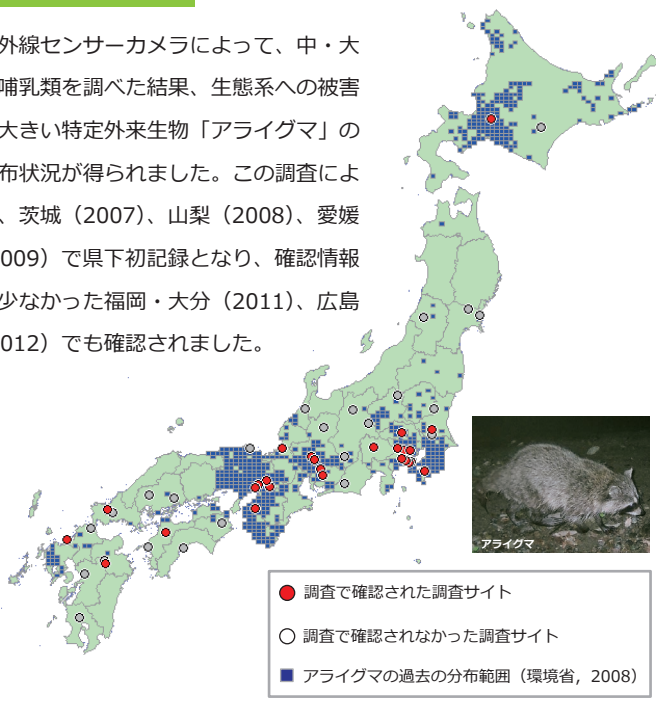
調査サイト周辺の森林面積率（半径 1 km 円内での比率）と種の多様性（種数）との関係を調べた結果、植物や鳥類など様々なグループで、森林面積が少ないサイトほど種数が少ないことが明らかとなりました。



里山の危機 外来種

外来種アライグマの生息地の広がりを確認

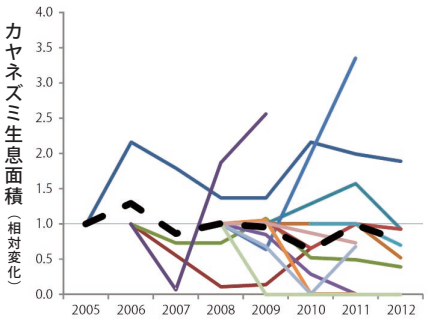
赤外線センサーカメラによって、中・大型哺乳類を調べた結果、生態系への被害が大きい特定外来生物「アライグマ」の分布状況が得られました。この調査により、茨城（2007）、山梨（2008）、愛媛（2009）で県下初記録となり、確認情報の少なかった福岡・大分（2011）、広島（2012）でも確認されました。



里山の危機 手入れ縮小

カヤネズミの記録数が大きく減少したサイトを確認

調査サイト数が少ないため全国的な傾向は把握できないものの、湿地や管理された二次的草地をすみかとする生きものの指標としているカヤネズミの生息面積が 23 サイト数 5 サイトで大きく減少していました。これらの調査サイトのいくつかでは、生息地であった小規模の草地が遷移によって生息に不適なササ原や灌木林に変化していたことも調査記録から確認できました。



カラーの線は各調査サイトの変化を、黒点線は全国平均の変化を表す.

公益財団法人 日本自然保護協会 モニタリングサイト 1000 里地調査 事務局
〒104-0033 東京都中央区新川 1-16-10 ミトヨビル２F
TEL:03-3553-4101 FAX:03-3553-0139
Mail：moni1000satochi@nacsj.or.jp

モニ 1000 里地 検索

モニタリングサイト1000 Since 2003